



水流で泥が流されて白っぽい砂礫底が見える



水中のニホンスッポンもくっきり

**井の頭池 池底くっきり
湧水に満たされる**

2024年8月30日前後、関東地方に接近した台風10号による影響で、井の頭池周辺に約300mmの雨が降った。この雨は地下水位の急激な上昇をもたらし、井の頭池や付近の園路に大量の湧水が湧き出した。

地上に湧水コポコポ

大雨から一夜明けた8月31日、池付近の園路の各所で地表に湧き出す湧水が見られた。直径1〜3cmほどの穴から湧き出した水が路面をさらさら流れ、井の頭池に注ぎ込んでいた。湧出箇所はお茶の水池沿岸一帯に見られ、ボート池左岸側にも点在していた。

今回の湧水は、地下の浅いところにある負圧地下水が地上に流れ出したもので、地下水位が急上昇したときに見られる一時的な現象だ。井の頭池付近では地下水位が46・2mにまで上昇すると園路付近に水が湧く(※)。園路に湧水が見られたのは2019年の秋以来で、今回は約10日間にわたって湧出した。

お茶の水井戸に湧水が！

井の頭池の名所『お茶の水井戸』は、普段はポンプで汲み上げた水を流しているが、地下水位が上昇したときには湧水が流れ出している。地下水位が45・6mまで上がると井戸付近に湧水が湧く(※)。井戸付近では、一時的には地下水が毎年のようにこの高さに達しているが、井戸が稼働していると湧水口が水

面下になっているので気がつかない。今回は偶然、井戸が停止している時間帯があったので、湧水の流れを見ることができた。

底までくっきり、湧水の池

台風からしばらくの間は、池底から大量の湧水が出ていたことにより、池の水位が高くなった。湧水が多いと、池水の入替わりが早くなり、池水は池底がくっきりと見えるほど透明になる。(裏面へ続く)



お茶の水井戸周辺から噴き出る湧水



園路を湧水が流れる。山間の小径を歩いているよう。



緑鮮やかな水中の草地

湧出口や水流の早い箇所では、泥が流されて本来の底質の砂礫が露出する。普段よりも水底が明るく見えて美しくなっていた。
大量の湧水が湧いた2019年秋の観測では、最大時で日量28,000トンの水が湧き、10,000トン以上の湧出が1ヶ月以上続いたとされ、今回はそれ以来の出来事だった。(井の頭池の井戸の揚水量3,000〜5,000トン程度である)(*)

水をたたえたハンノキ林



普段は池にいるハグロトンボが園路にも！

いけいけ！かいぼり隊

～アオミドロ類回収作業の巻～

井の頭池の水面に、緑色のワタのような塊が浮かんでいることがある。これは緑藻のアオミドロ類だ。水温が高い春から夏頃、池底や杭などの構造物上に発生し、日が経つと浮かび上がって水面をユラユラと漂う。
浮遊しているアオミドロ類は、風で岸辺に吹き寄せられて水面をびっしりと覆ってしまふ。そして細胞が死ぬと黒くなり、腐敗臭を発するのだ。
かいぼり隊が、アメリカザリガニ防除活動後の時間を利用し、池の眺望スポットを快適に保つ目的でアオミドロなどの回収も行っている。回収作業は3班に分かれて行う。まず、池に入って浮遊物を竿で押して岸に寄せる班。集めたものをカゴで水切りして陸に上げる班。そして集積所に運搬する班だ。作業を始めると



岸に吹き寄せられたアオミドロ類



回収したアオミドロ類の運搬



みるみるうちに水面が回復し、臭いが消えていく。池の景観が良くなったという達成感と、来園者からの感謝を励みに、月に数回の回収作業を行っている。

Topics

井の頭池でカトリヤンマを確認



羽化直後の様子 (2024 年 8 月)



カトリヤンマ (都内撮影)

カトリヤンマは林のそばにある湿地や水田に生息し、地面が露出した畦の中などに産卵する。2024年7月〜8月に井の頭池の池畔で、羽化直後の成虫と水中にいるヤゴ、羽化した後の抜け殻109個を確認した。井の頭恩賜公園周辺では見る機会の少ないトンボで、2016年からモニタリングを開始して以来初めての確認だった。
都内では水辺環境が減ったことや、水田や湿地が放棄されてやぶになったことなどで生息地が減少しており、東京都レッドリスト(多摩部)で絶滅危惧IB類に選定されている。